

YAMAHA NATURAL SOUND SERIES

STEREO RECORD PLAYER YP-500

ステレオレコードプレイヤー
(取扱説明書)

 **YAMAHA**

C/F

●ごあいさつ

このたびはヤマハステレオレコードプレーヤーYP-500をお買上げいただきたいへんありがとうございます。

YP-500はステレオレコードプレーヤーとして、すぐれた機能と使いやすい操作性を備えた高性能設計となっています。

このパンフレットは、YP-500の性能を最高に発揮させ、かつ長年故障なくお使いいただくための“正しい取扱法”を記したものです。ご使用前にぜひご一読くださいますようお願いいたします。

●もくじ

①おとくサービス依頼	1
②これだけは特にご注意ください	2
③各部の名称	3
④ターンテーブルの取付け	4
⑤ベルトのかけ方	4
⑥トーンアームの組立て	5
⑦他カートリッジの使用はこうして	6
⑧針圧調整のしかた	8
⑨オーディオアンプへの接続	9
⑩レコードをお聞きになる前にもう一度	10
⑪レコード演奏のしかた	11
⑫針先の寿命と交換のしかた	12
⑬YP-500の保守について	12
⑭レコード演奏のトラブルあれこれ	13
⑮YP-500の規格と附属品	14
⑯YP-500の配線図	15
⑰ヤマハのサービスネット	16



①おとくなサービス依頼

サービスのご依頼は、お買上げ店または日本楽器各支店のオーディオ技術係へお願いいたします。

●お名前、お住まいをハッキリと

1. サービスをご依頼なさるとき、お名前、お住まいをハッキリとお知らせください。

特に、アパートや他の方と同居なさっていらっしゃる方などは、アパート名や〇〇方などの肩書き、またお伺いする際の目標物なども併せてお知らせください。サービスマンがお約束の時間に出来るだけ早くお伺いするために大切です。

2. サービスマンからお客様宛にご連絡をさしあげることもございますので、連絡方法もお知らせください。たとえば電話番号(含呼出)、お勤め先の電話番号などです。これは、ステレオの具合をもう少しお聞きしたい時や、万一止むをえぬ事情などによってお約束を変更しなければならないような時など、お客様にご迷惑をおかけしなすみます。

●ステレオの具合を詳しくお知らせください。

1. サービスをご依頼なさるときは、ステレオの具合をできるだけ詳しくお教えください。お使いになっている方からお教えいただくことが最上です。サービスにお伺いする際にあらかじめ補修部品などの手配ができ、二度お伺いしなければならないようなご迷惑をおかけすることがありません。

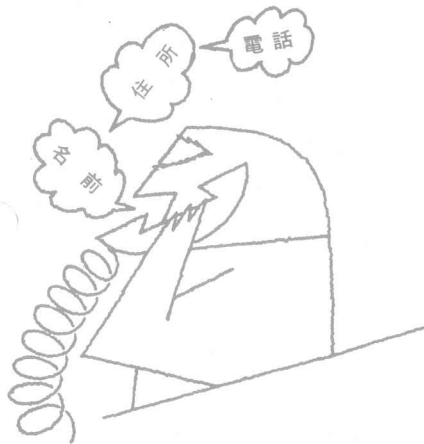
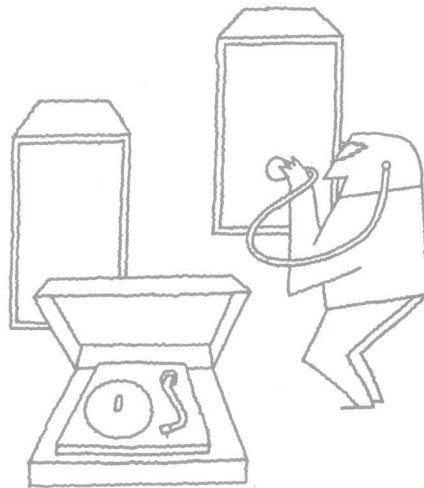
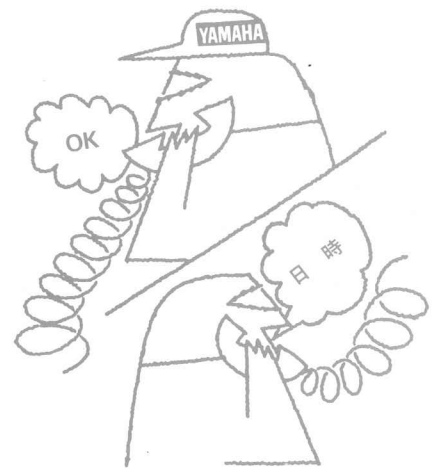
2. 型番、製造番号なども併せてお知らせください。ご面倒ですが保証書をご覧いただき、詳細をお知らせください。早く確実にサービスさせていただきます。

なお、具合の悪い場合に、器材を店にご持参頂ければ、修理も早く料金も安くお得です。

●サービスのお約束について

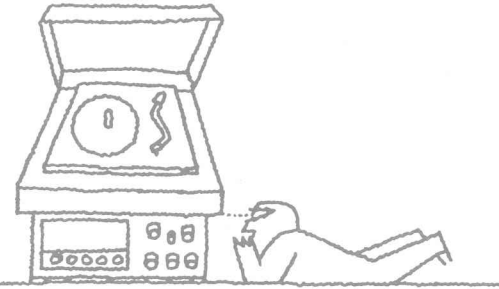
1. お仕事の関係などで昼間ご不在の方、留守勝ちの方には、できるだけお伺いする日時をお約束いたしたいと思えます。突然お伺いしてご迷惑をかけたり、サービスマンが留守に伺ってムダ足をすることがなくなります。

2. お約束した日時に万一ご都合が悪くなられたら、出来るだけ早くサービスをご依頼になったお店にご連絡ください。出張料の二重負担が防止できてお得です。

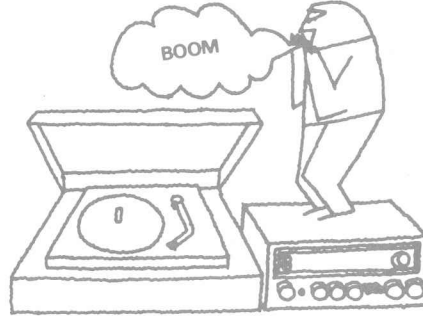


② これだけは特にお気をつけください。

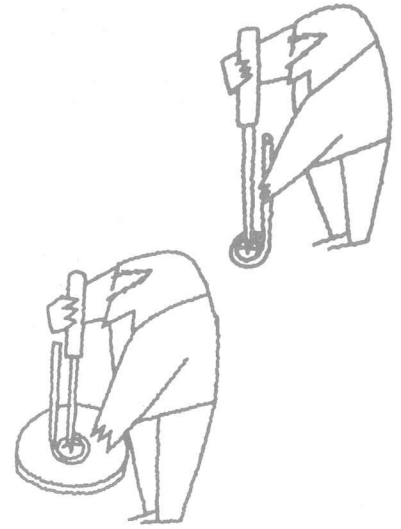
● YP-500を設置する場所は、床や台がしっかりした所を選び、水平になるよう調整してください。水平に設置されていないと、針先はレコード溝に正しくトレースせず、再生音も不自然なものとなります。また床や台がしっかりしていないと、針とびやハウリングの原因となります。



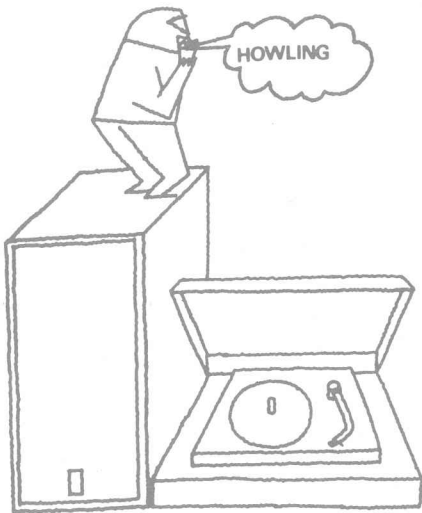
● アンプと並べて設置するとき、アンプによってはハムを出すことがあります。YP-500とアンプの位置を替えてみるとハムは止まります。これはアンプの電源トランスなどから誘電ハムを拾うからで、トーンアーム側にアンプを位置させないようにしてください。



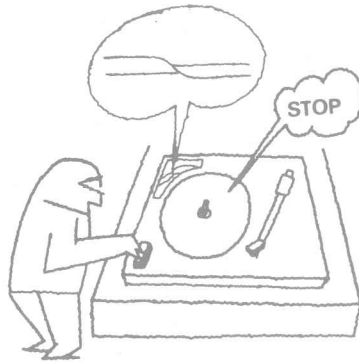
● 輸送用固定ネジ5本は必ず取除いてください。(4頁を参照)



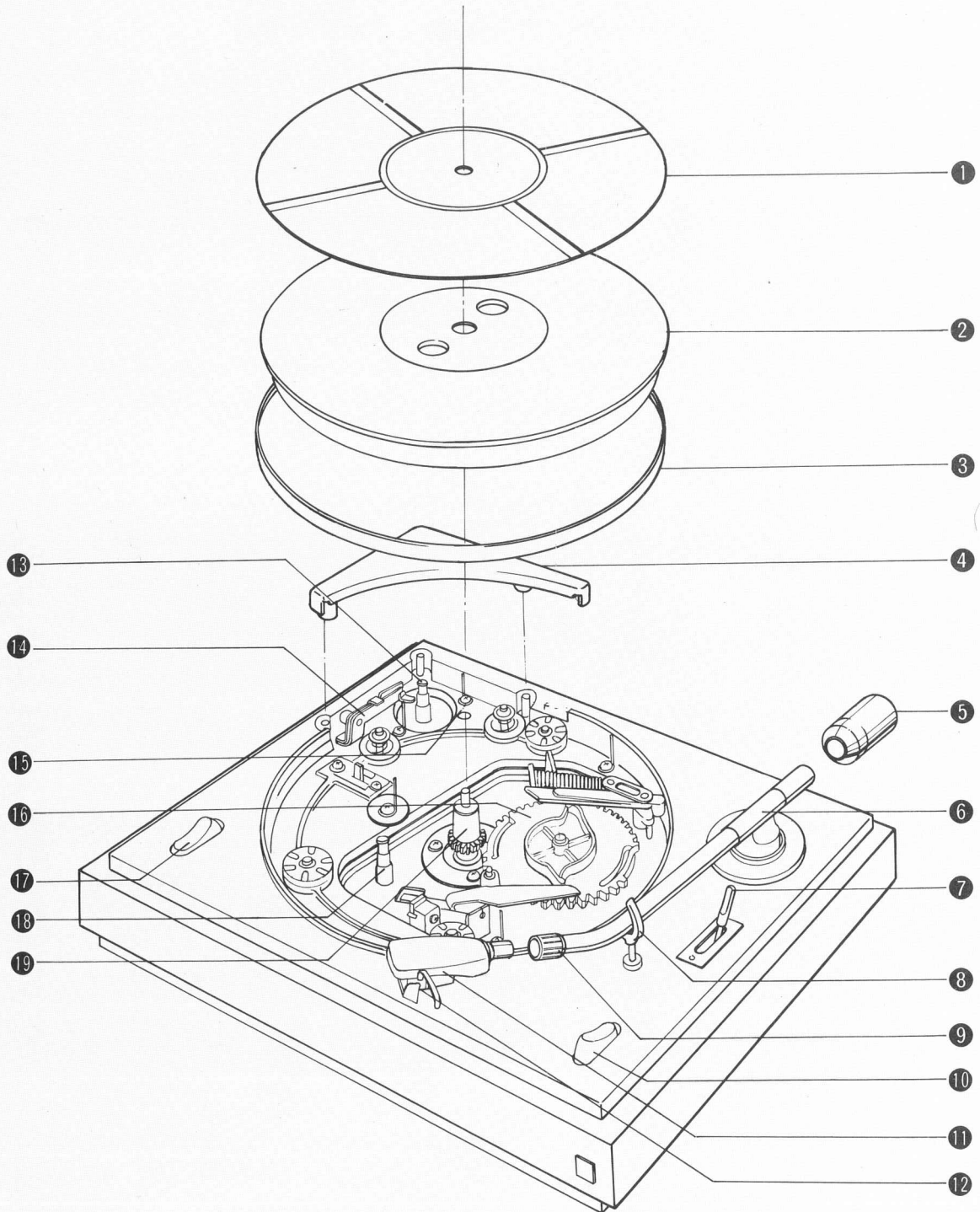
● スピーカーシステムのすぐ隣や前面に設置するとハウリングを起こしたり針とびの原因となります。



● ターンテーブルがまわっていない時はスピード切換をしないでください。ターンテーブルがとまっている状態でスピード切換スイッチを押しますとベルトが伸びたり、ターンテーブルが正常に動かなくなることがあります。



③ 各部の名称



① ゴムシート

〈センタープレートの保護ビニールは使用時はとり除いてください〉

② ターンテーブル

③ ベルト

④ ベルトカバー

⑤ メインウエイト(カウンターウエイト)

⑥ トーンアーム

⑦ キューイングレバー

⑧ アームレスト

⑨ ヘッドシェルロックナット

⑩ PLAY&OFF スイッチ

⑪ ヘッドシェル

⑫ カートリッジ

⑬ モータープーリー

⑭ ベルト切換ガイド

⑮ 注油穴

⑯ オートリターン機構

⑰ スピード切換スイッチ

⑱ サイクルチェンジ用プーリー

⑲ センターシャフト

④ ターンテーブルの取付け

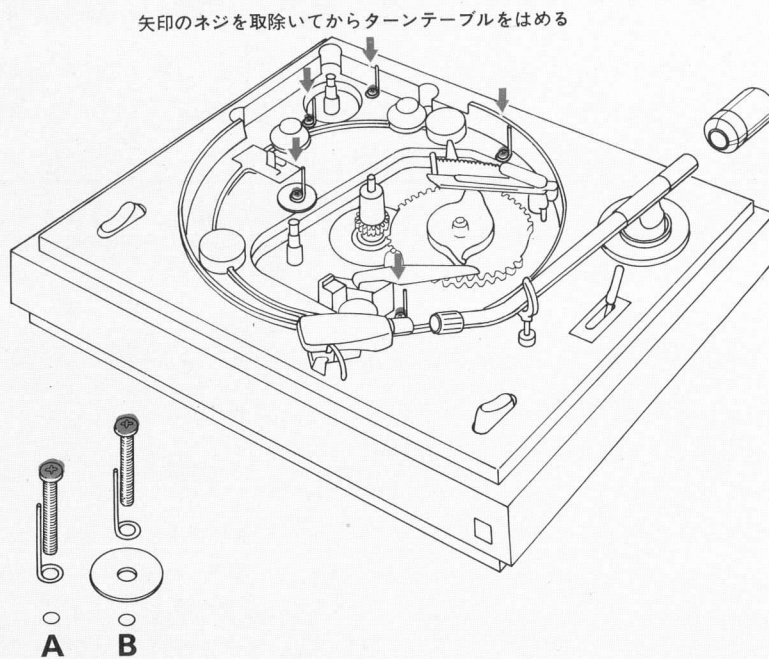
● 輸送用固定ネジ5本を取除いてください

パッケージを開けて、ターンテーブルをはめる前にプレーヤー内部の輸送用固定赤ネジ5本（うち4本は図Aのような金具とともに、1本は図Bのような金具とともに）を必ず取除いてください。

この輸送用固定赤ネジ5本を取除かず、金具を曲げたりしてターンテーブルをはめてしまうと、レコード演奏時にモーターゴロがでたり、オートリターン機構がうまく働かなかったり……良い音でのレコード演奏はのぞけません。

注

引越しや故障修理のセット移動の際は、再びオートリターン機構ギヤをPLAY状態にしてください。また取除いた赤ネジもセット移動時には必要ですから保存しておいてください。



⑤ ベルトのかけ方

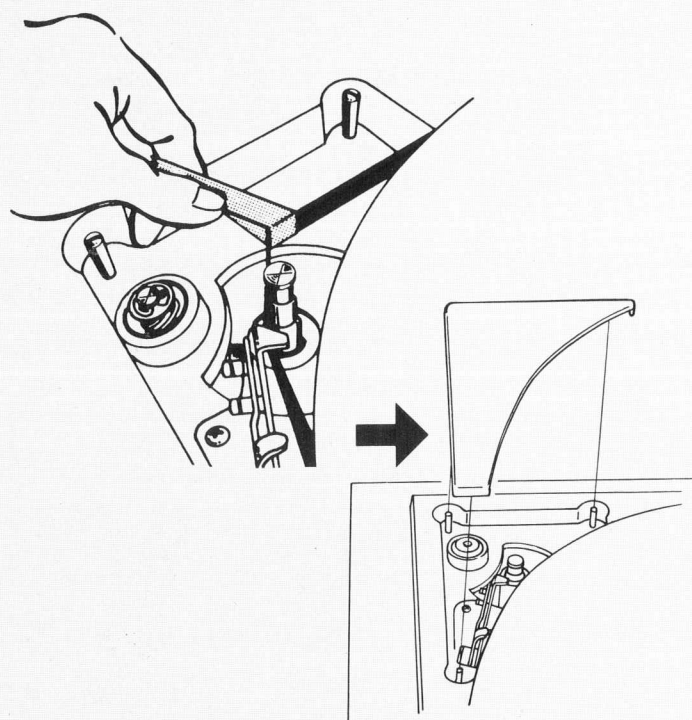
駆動用ベルトはターンテーブルの外周にかけられていて、その一端にリボンがはさまれています。

① プレーヤーパネル左端のスピード切換スイッチを33の方へ押します。ベルト切換ガイドが上にあがり、ベルトがかけやすくなります。

② 図のように、ベルトにはさまれたリボンの両端を引張ってベルトを伸ばし、ベルト切換ガイドの間を通して、よじれないようモータープーリーにかけてからリボンはずしてください。

③ ベルトをかけおえたら、ベルトカバーを3本の固定ピンに穴を合わせてはめこんでください。

ベルトを切換ガイドを通してモータープーリーにかけないと、ターンテーブルのスピード切換えができなかったり、ターンテーブルが回らなかったり、またベルトを切断してしまうような事も起こります。必ず説明順序通り確実にベルトをモータープーリーにかけてください。



⑥ トーンアームの組立て

●メインウエイトの取付け

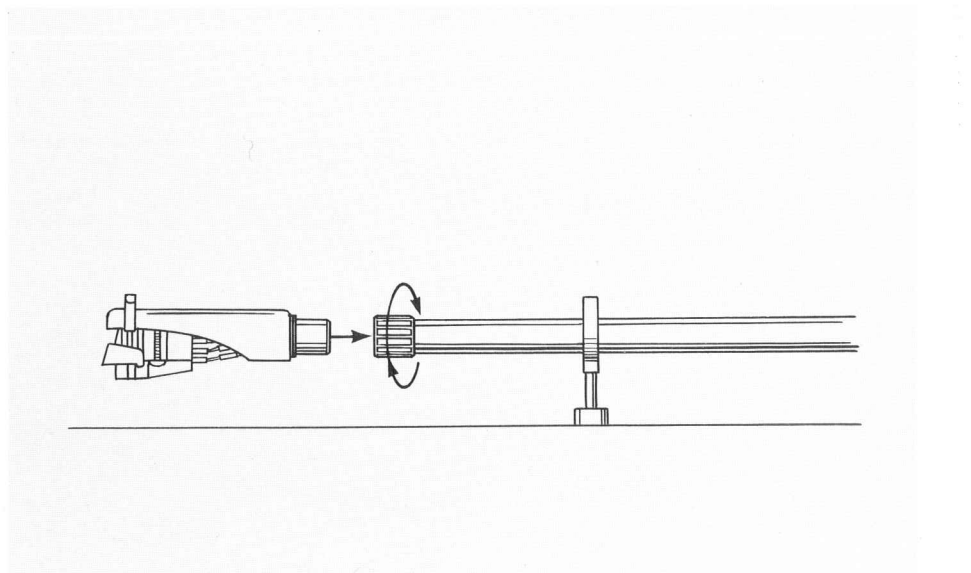
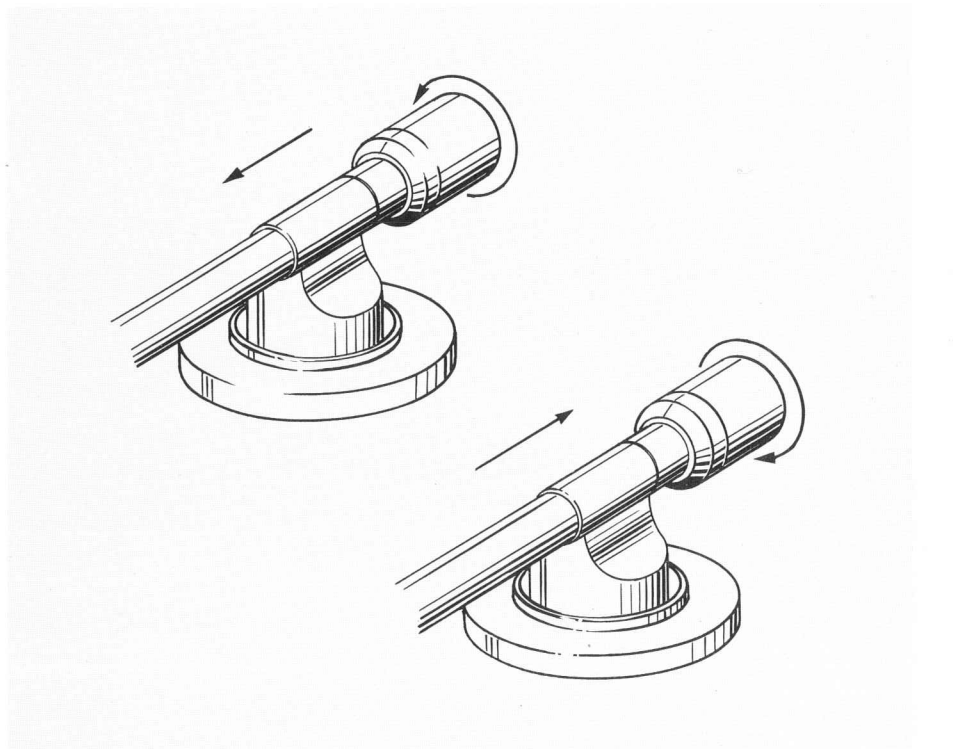
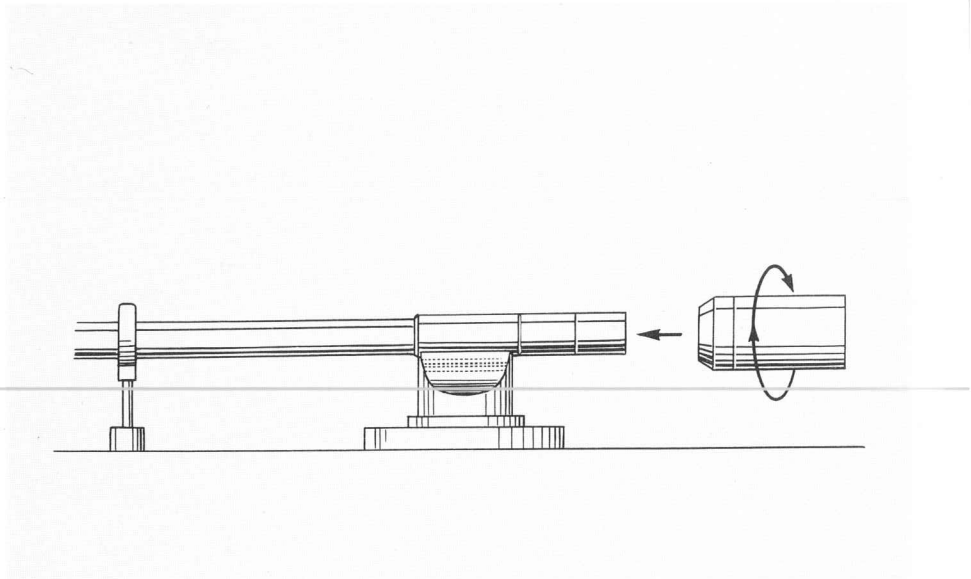
トーンアームのメインウエイトは、付属品のメンテナンスボックス内に梱包されています。(別に小型のサブウエイトもあります。これはヘビウエイトカートリッジ用ですから、付属のカートリッジ〈シュア-M75シリーズ〉を使用するときは取付けないでください)

- ①図のように、トーンアームをアームレストに固定した状態で、トーンアーム尾部にメインウエイトを矢印方向に回しながら押し込みます。
- ②メインウエイトを押し込んでゆくと軽いクリックがあります。このカチッという軽い手ごたえ(クリック)は、メインウエイト内部に刻まれた螺旋溝とアーム尾部のストッパーの噛み合ったことを知らせます。
- ③このクリックのあとのメインウエイトは、アームを正面からみて反時計方向(左)に回すとトーンアーム基部の方(前)に、時計方向(右)に回すと尾部の方(後)にスムーズに移動するようになります。

メインウエイトをトーンアーム尾部に押し込んでから左右に回してもスムーズに前後しない場合は、説明②のメインウエイト内部の螺旋溝とトーンアーム尾部のストッパーが噛み合っていないためです。必ず噛み合ったクリックのあるまでメインウエイトを回しながら押し込んでください。確実に噛み合っていないと針圧の調整をとることができません。

●ヘッドシェルの取付け

- ①図のようにヘッドシェルの尾部をトーンアーム先端のソケットへ、ヘッドシェルのピンとトーンアームソケットのスリットを合わせて差し込みます。
- ②ヘッドシェルの差し込んだら、トーンアームの先端外側のロックナットを、図のように反時計方向(左)へ回してしっかり締めてヘッドシェルの固定してください。



⑦他カートリッジの使用はこうして

トーンアームのヘッドシェルは交換可能型ですから、附属カートリッジのついたヘッドシェルを外し、他カートリッジを使用することができます。

●使用できるカートリッジの型式

MM型(ムービングマグネット型)、IM型(インデュースドマグネット型)など高出力マグネチック型カートリッジでヘッドシェルへの取付寸法がEIA規格のものならスペアヘッドシェルに取付け、トーンアームに接続すればそのまま使用できます。

MC型(ムービングコイル型)はカートリッジ自体の出力電圧が低いので、アンプとの間に昇圧トランスやヘッドアンプを接続して出力電圧をあげてやれば使用できます。最近では高出力のMC型もあり、MM型やIM型カートリッジと同じように昇圧トランスなどを必要としないでそのまま使用できます。他カートリッジを使用するときは、そのカートリッジの説明書をよく読んでご使用ください。

●使用できるカートリッジの自重

使用できるカートリッジの自重は、ヤマハスペアシェルHS-600Sに取付け針圧2.5gをかけるとして、シェルとカートリッジとも全重量が18~27gまでのものが使用できます。(HS-600Sの自重は取付ビスとも約12.5gです)

全重量22g以上(カートリッジのみなら約10g)のものは附属のサブウェイトを取付け使用できます。ヘッドシェル内に昇圧トランスが組込まれてMC型カートリッジ(約30gくらい)などは重すぎて使用できません。

また最近多い軽量型カートリッジ(4~5gくらい)は軽すぎますから、附属のウェイト調整板(1.5g)によって加重の上使用してください。

●ヘッドシェルへの取付け

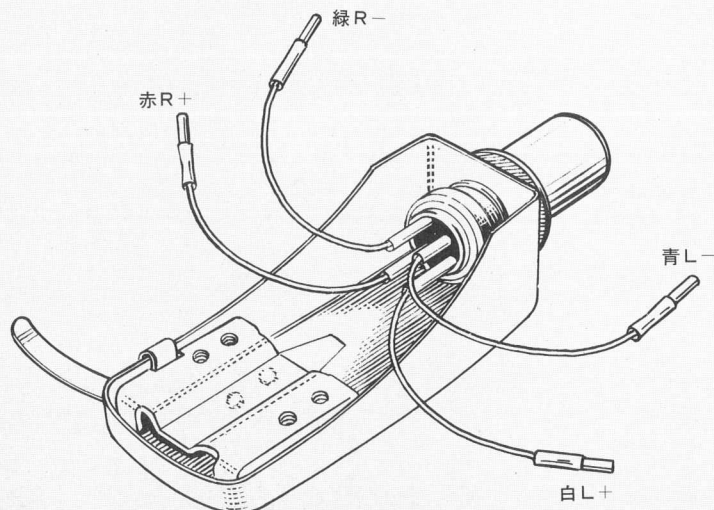
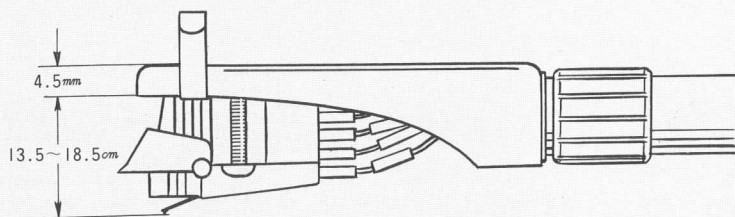
ヘッドシェルは別売品のヤマハスペアシェルHS-600Sをご使用ください。

HS-600Sのシェル内リード線は図のようになっていますから、使用カートリッジの各ピンに接続してください。

●使用できるカートリッジの寸法

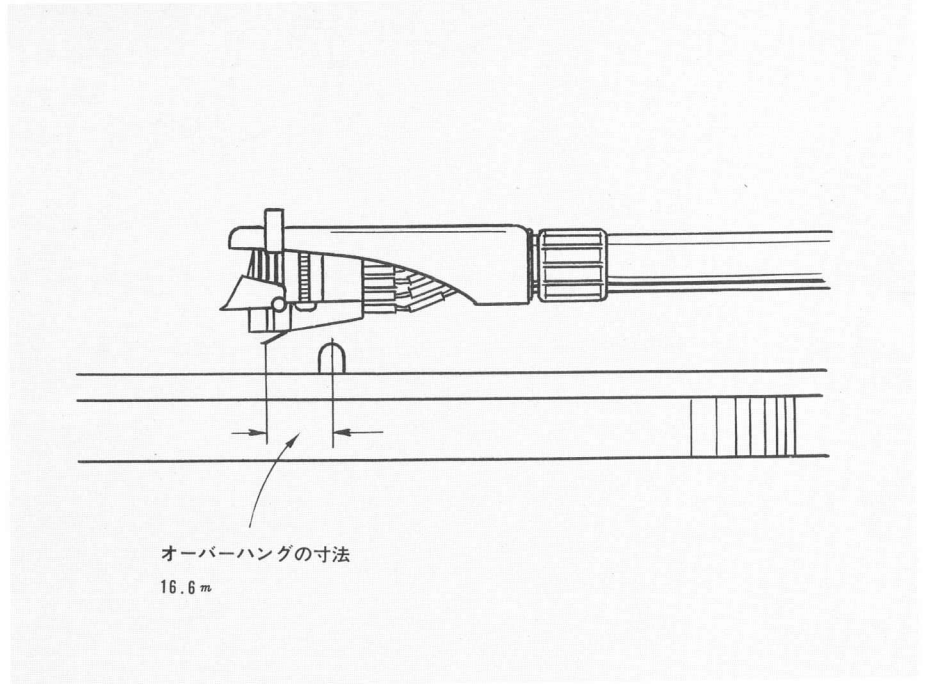
使用できるカートリッジの寸法は、ヤマハスペアシェルHS-600Sに取付けるとして、ヘッドシェル上面からカートリッジ針先までが18~23mm以内のものを使用してください。

図のようにHS-600Sは上側からカートリッジ取付位置までの厚みが4.5mmですから、カートリッジ単体の寸法なら13.5mm~18.5mm以内です。(附属のカートリッジ・シューア-M75シリーズは17.5mmです)この範囲以上のものはレコード面を擦ることがあります。



● オーバーハングの寸法

トーンアームのオーバーハングは16.6mmに設計されております。ヤマハスペアシェルHS-600Sなら取付穴が2箇所ありますから、取付カートリッジの寸法によって図のようにオーバーハングが16.5mmに近くなる方の取付穴をえらんでください。

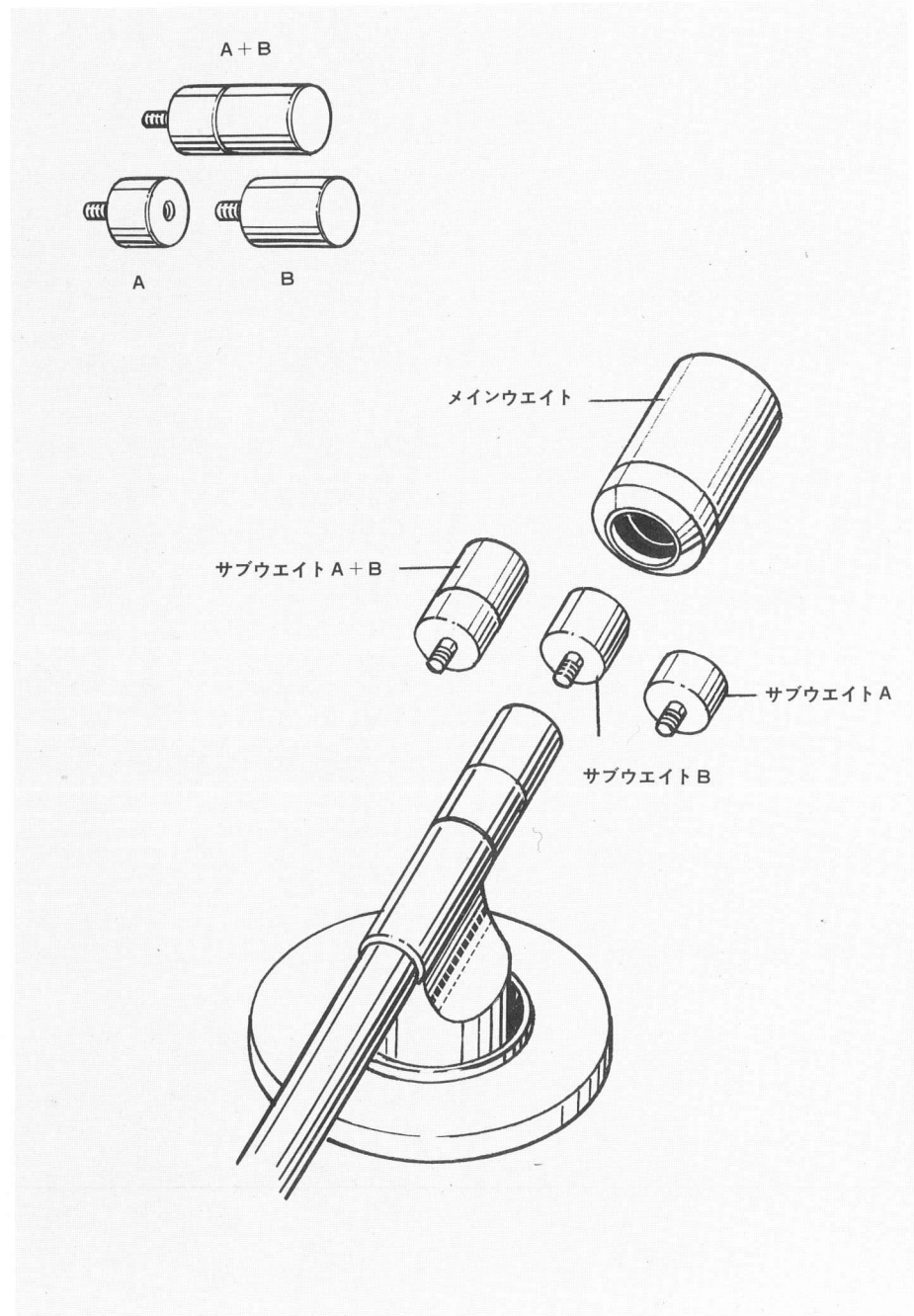


○ サブウエイトの使い方

附属品のメンテナンスボックス内には図のようなサブウエイトが入っています。これは自重の重い他カートリッジを使用するとき、メインウエイトだけではヘッド部分が重くなりすぎ、適正針圧がとれない場合のみ使用してください。(附属カートリッジ・シュアーM75シリーズには絶対使用しないでください)

図のようにトーンアーム尾部にねじ込み取付けますが、A、B1組となっていますから、カートリッジの重さによって組合わせをかえて使用してください。

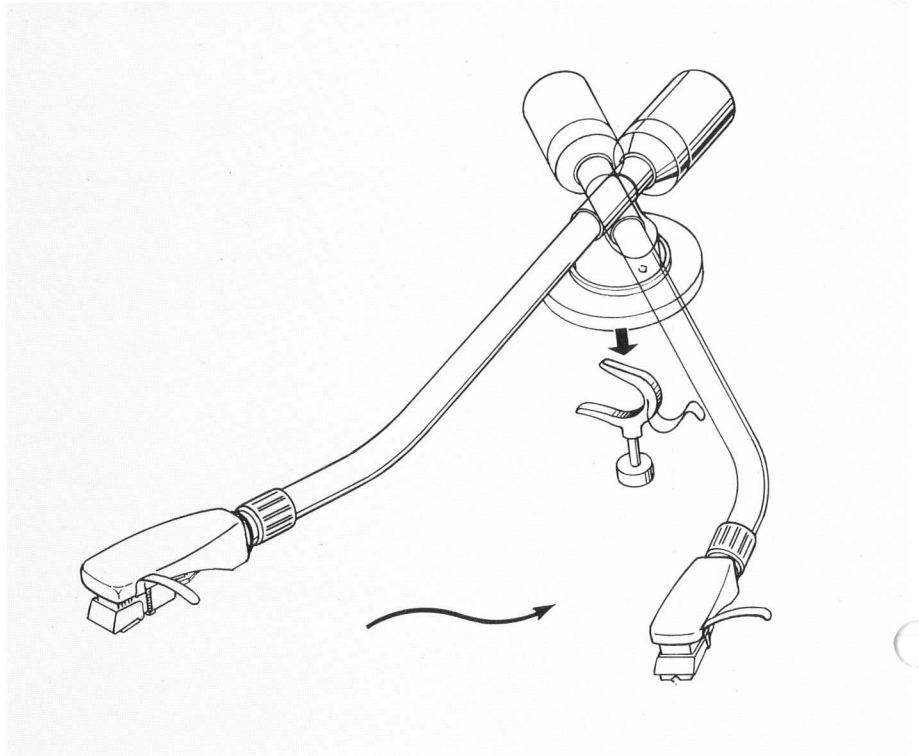
- ①メインウエイトを取外します。
- ②サブウエイトをトーンアーム尾部にねじ込みます。
- ③再びメインウエイトを取付けます。
- ④針圧は“針圧の調整のしかた”を参照にして適正針圧をとってください。



8 針圧調整のしかた

プレーヤーの組立てが完全に仕上がった時点で、トーンアームの針圧を調整してください。付属のカートリッジ・シューア-M75シリーズは適正針圧 2 g です。

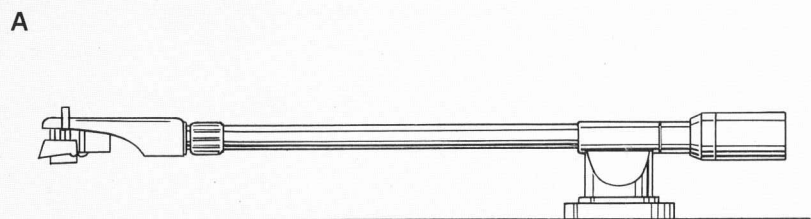
- ① 図のようにヘッドシェルフィンガーをもち、トーンアームを上を持ち上げます。アームレストのストッパーを上部を押し上げて、トーンアームをアームレストの外側に引き出します。
- ② アームレストの外側に引出されたトーンアームは、オート機構から解除されてフリーとなっています。



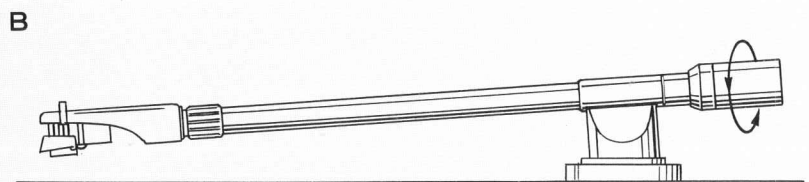
- ③ 次に図Aのようにトーンアームが基点を中心に水平バランスするよう、メインウェイトを左右に回してみます。図Bのように頭部が重いときはプレーヤーの正面から見て右に回し、図Cのように尾部が重いときは左に回してください。このバランスをとるときはカートリッジ針先をいためないように針カバーはおろしておいてください。

- ④ 水平バランスをとるときはヘッドシェルフィンガーを指でおさえながら、メインウェイトをゆっくり回し、バランス具合をみる際にはフィンガーから指を軽くはなしてみるようにして慎重に調整してください。

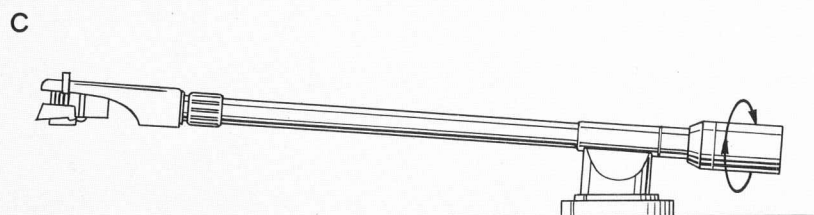
- ⑤ 完全に前後のバランスがとれたら、①のときの逆にトーンアームをアームレストに戻し固定してください。



○完全にバランスのとれた状態



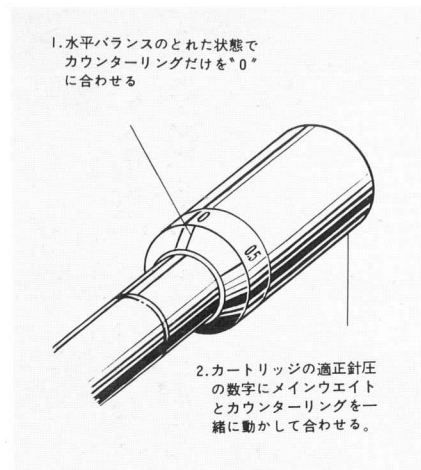
×頭部が重い(矢印方向にウェイトを回す)



×尾部が重い(矢印方向にウェイトを回す)

- ⑥次にメインウエイトは前部の数字（0～3）が記されているカウンターリングと後部のウエイトが別々に動く構造となっていますから、水平バランスのとれた位置でメインウエイトが動かないように指でおさえて、前部のカウンターリングだけを回して数字の“0”をトーンアーム軸のセンターラインに合わせます。
- ⑦次に後部のウエイト部を左に回すとカウンターリングも一緒に回り、メ

インウエイト全体が前へ移動していきます。ゆっくり回しながら一緒に回っているカウンターリングの数字を附属カートリッジ・シュア-M75シリーズの適正針圧である2gを表示する“2”をトーンアーム軸のセンターラインに合わせます。（もし、カートリッジの適正針圧が3gなら“3”1.5gなら“1.5”をセンターラインに合わせます）



⑨オーディオアンプへの接続

● 出力コードの接続

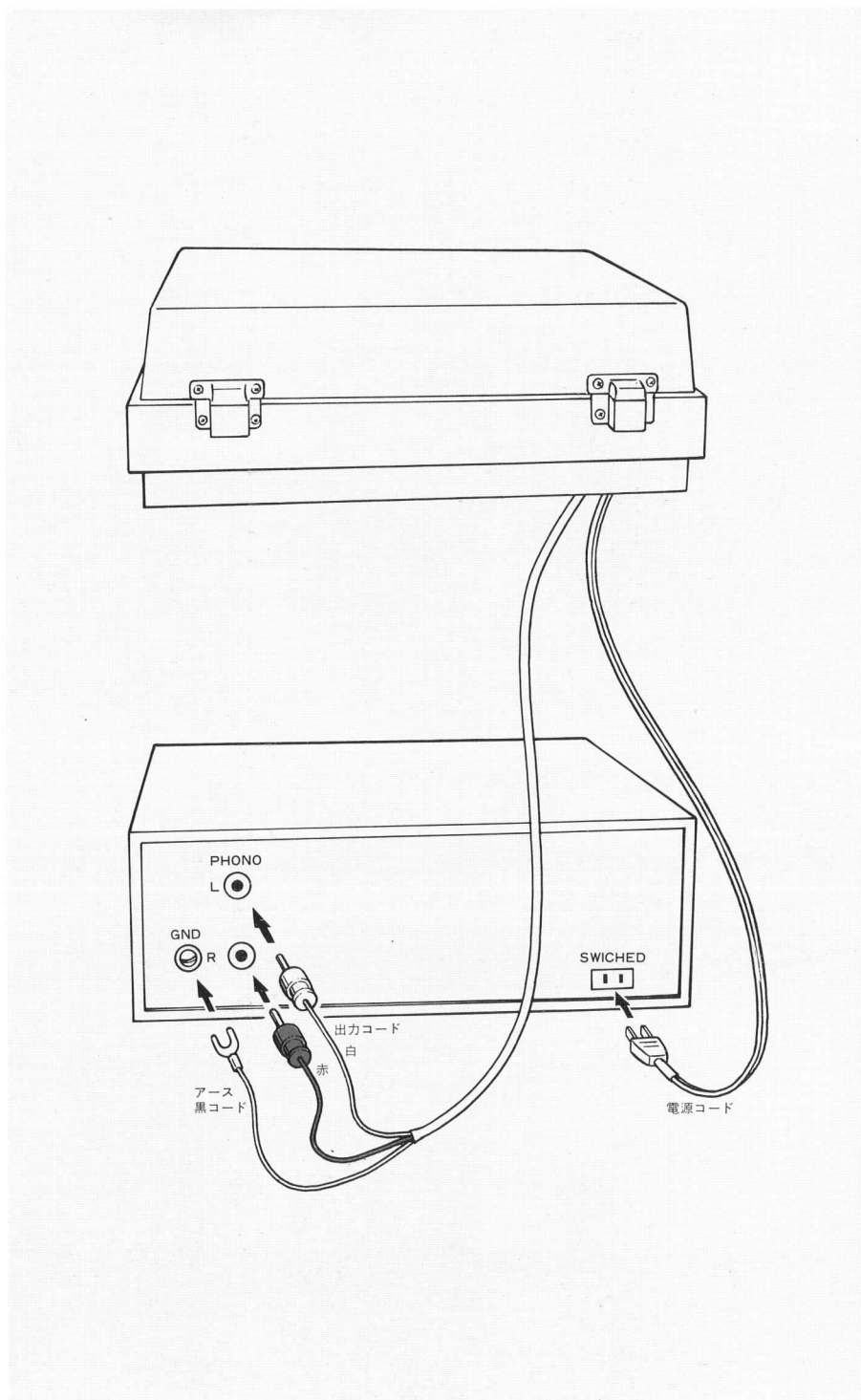
キャビネット背下面より引出されている出力コードの白ピンジャック（Lチャンネル用）と赤ピンジャック（Rチャンネル用）を、オーディオアンプのPHONO端子（マグネチックカートリッジ用端子）のL、Rへそれぞれ接続してください。（市販オーディオアンプの大部分はPHONOまたはMAGと表示されています。また左チャンネルはL、右チャンネルはR、と表示されています）左右チャンネルが逆にならないよう気をつけて接続してください。

● アース線の接続

出力コードと一緒に黒のアース線が出ています。このリード線は接続するオーディオアンプのアース端子（G または GND などと表示されています）に接続して、必ずアースをとってください。（このアースをとらないと、ハム雑音が出る場合があります）

● 電源コードの接続

キャビネット背下面より引出されている電源コードは、接続するオーディオアンプの予備コンセントに差込むと便利です。（外国製のアンプの場合は電源が115～117Vのものが多く、スライダックやステップアップトランスで昇圧使用している時は、アンプの予備電源コンセントにも115～117Vが流れていますから接続しないでください）



⑩レコードをお聞きになる前にもう一度…

レコードをターンテーブルにのせてお聞きになる前に、次のような点をもう一度チェックしてみてください。

- ①プレーヤー組立てのとき、輸送用固定赤ビス5本(金具とも)を取除いてプレーヤーの完全組立てはできているでしょうか。

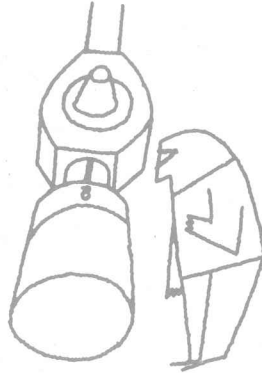
ビス、金具を取除いていないと、レコード演奏中モーターの振動音がスピーカーから出たり、スピード切換スイッチを押してもスピードが切換られなかったり、オートリターン機構がスムーズに働かないことがあります。



- ②ターンテーブル駆動用ベルトをベルト切換ガイドを通して、モータープーリーにかけたでしょうか。

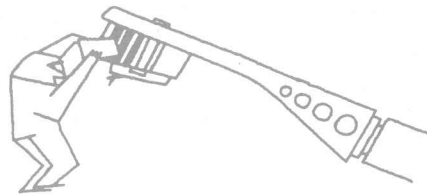
ベルトがモータープーリーにかかっていないとターンテーブルは回りません。またベルトが切換ガイドを通っていないとスピードは切りませんし、ベルトをキズつけたり、ターンテーブル外周よりベルトが外れるようなことが起こります。

- ③針圧は適正針圧をとったでしょうか。付属のカートリッジ“シュア-M75シリーズ”の適正針圧は2gです。針圧が不適正ですと再生音は歪みますし、レコードや針圧をいためる場合があります。



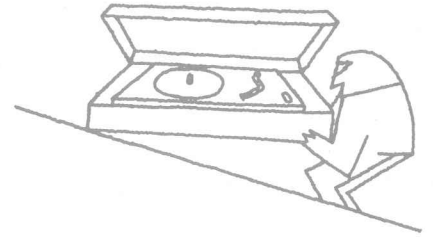
- ④カートリッジの針カバーを上へスライドして外しましたか。

針カバーをかけたままPLAYしますと、音が出ないだけでなくレコードをいためます。



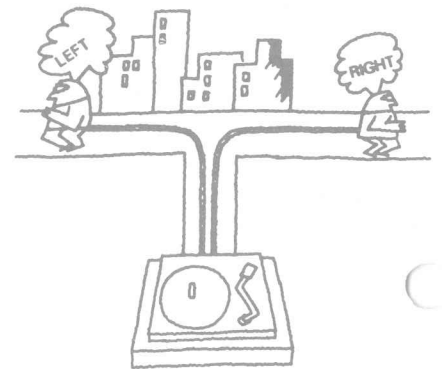
- ⑤プレーヤーは水平に設置されているでしょうか。

傾いて設置されていると再生音が歪み、レコードをいためる場合があります。



- ⑥オーディオアンプへの接続は完全でしょうか。

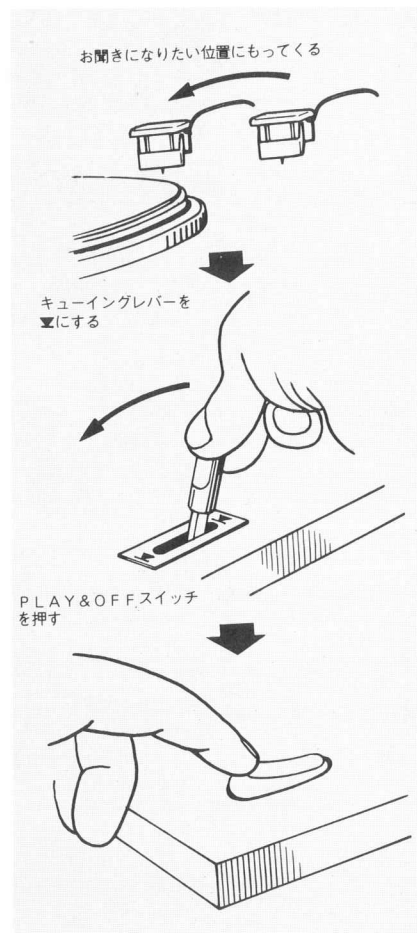
PHONO端子へL、Rの出力コードを正しく接続しないと音が出なかったり、左右チャンネルが逆に再生されたりします。



11 レコード演奏のしかた

- ①接続したオーディオアンプのファンクションスイッチをPHONOにします。
- ②ドーナツ盤の場合は、附属品メンテナンスボックス内の45RPMアダプターを、ターンテーブルセンターシャフトにはめてご使用ください。
- ③図のようにトーンアームのカートリッジ針先を、レコード面上のお聞きになりたい位置にもってゆきます。(トーンアームはリフターが作動していますから、針先は図のようにレコード面上より約5%上に位置することになります)
- ④キューイングレバーを手前に引いて▼(DOWN)位置にします。
- ⑤以上の準備が終わったら、PLAY&OFFスイッチを押します。ターンテーブルが回り出し、演奏するレコードの回転数に合わせて、スピード切替スイッチを33または45にします。

- ⑥トーンアームはリフターが解除されて針先が静かにレコード面上に降り、レコード演奏がはじまります。キューイングレバーが▼(DOWN)位置になっていないとPLAY&OFFスイッチを押しても、トーンアームは降りずレコード演奏はできません。
- ⑦レコードの演奏が終わるとトーンアームの針先は自動的にレコード面から離れ、トーンアームはアームレストに戻り、ターンテーブルも停止します。レコードによってはトーンアームが自動的に戻らないことがあります。これはレコードが規格から外れている場合や偏心している場合に起こります。このような場合は、PLAY&OFFスイッチをもう一度押すとトーンアームはアームレストに戻ります。



●レコード演奏を途中でやめたい時
レコード演奏を途中でやめたい時は、PLAY&OFFスイッチを押してください。トーンアームは約5秒後、自動的にレコード面から離れ、アームレストに戻ります。そしてターンテーブルも電源が切れて停止します。

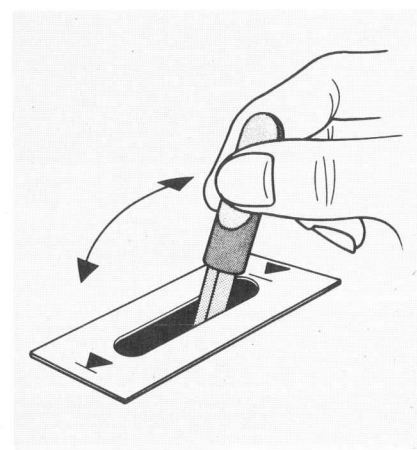
●便利なキューイング機構の使い方
トーンアームの右側パネル面にあるキューイングレバーは、レコードの演奏を一時中断したいとき使う便利な機構です。レバーを▼マーク側にするとトーンアームは下り、▲マーク側にするとリフトアップされます。英会話のレッスン、踊りの稽古などで演奏を部分的にくりかえしたいときや、演奏中に電話がかかってきてその間だけ演奏中断などの場合にお使いください。

- ①キューイングレバーを▼(DOWN)位置から▲(UP)位置にすると、ターンテーブルは回転したままでトーンアームがレコード面よりリフトアップされ、演奏が中断されてます。

- ②再びレコード演奏を行いたいときはキューイングレバーを▲(UP)から▼(DOWN)位置にすれば、トーンアームはレコード面に降り演奏が再開されます。

ⓧキューイングレバーの操作はゆっくりとやってください。急激にレバーを動かしますと、トーンアームがバウンドして針先やレコードをいためることがあります。

またアンチスケーターにより針先の落下点がレコード演奏の手前になることがございますが、これは故障ではございませんので御注意ください。



⑫針先の寿命と交換のしかた

●針先の寿命

針先はダイヤ針を使用していますが、永久に使えるわけではありません。ご使用になるレコードの状態（いたんであるレコードやホコリだらけのレコードの場合と、新しくいつもきれいに使用されているレコードの場合など）によって異なりますが、約200～300時間くらい使用できます。

針先が磨耗すると音が歪んだりビリついたりする上、レコードをもいためる原因となりますから、針先は早めに交換してください。

●針先の交換のしかた

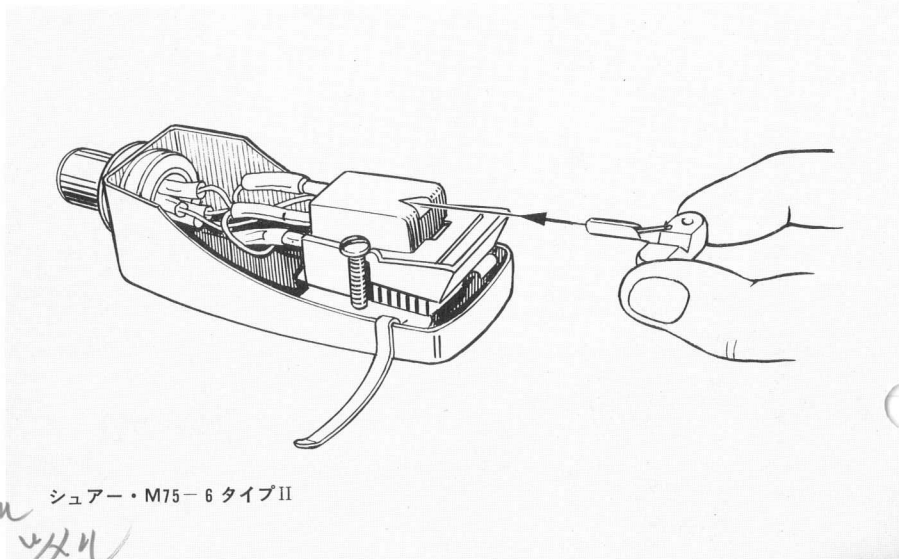
交換針はヤマハNSステレオ特約店又は日本楽器直営店に用意されています。お求めの際は「YP-500用シュアーM75-6タイプII」とご指定ください。定価は¥8,500円です。針先は次のよう

な手順で交換してください。

- ①トーンアームからヘッドシェルを外します。
- ②図のように針先カバーを上にあげて、古い針先ホルダーを手前に引いて取

外します。

- ③新しい針先を②と逆の方法でカートリッジにしっかり差込みます。
- ④ヘッドシェルをトーンアームに取付けます。



⑬YP-500の保守について

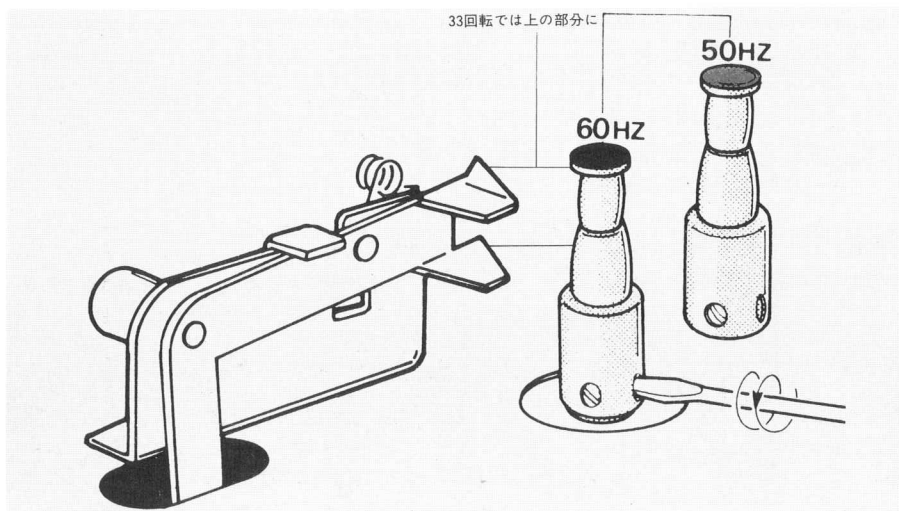
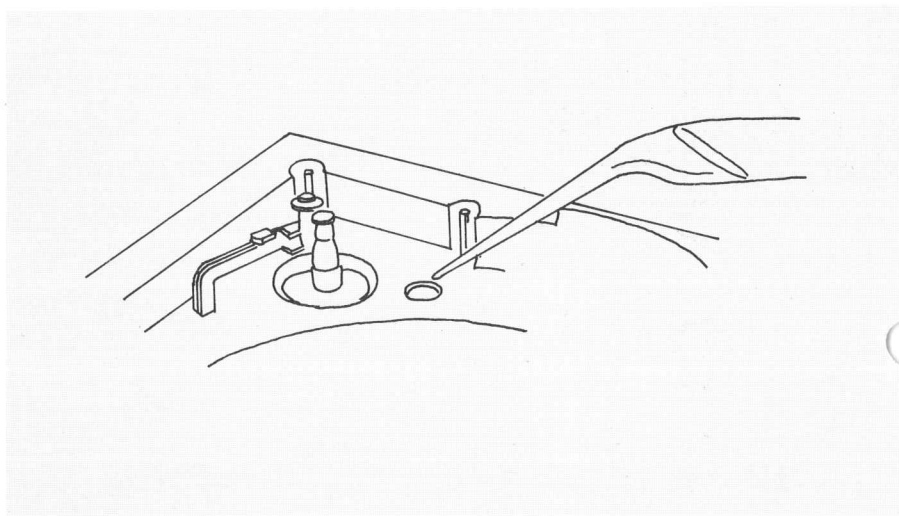
●モーターへの注油について

注油は付属のオイルで図の注油孔へ、1年に1～2滴注油します。注油しすぎますと油があふれてベルトなどに附着して、正常回転のさまたげになります。センターシャフトにも1～2滴注油すれば完全です。

●異なる電源周波数地域でご使用になるときは

出荷時に仕向地の電源周波数に合わせてモータープーリーをセットしていますが、移転などで異なる電源周波数地域でご使用になるときは、モータープーリーを交換します。

- ①ターンテーブルを外してモータープーリー側面の2本のネジを付属の○小ドライバーでゆるめて取外し、付属のサイクルチェンジ用プーリーと交換します。50Hz用は太く（頭が赤）60Hz用は細く（頭が黒）です。
- ②プーリーの取付位置は、ベルト切換スイッチを33回転にし、ガイドが上に上った状態の上面とプーリーの上面が同じ高さのところを2本のネジを締めてセットします。



14 レコード演奏のトラブルあれこれ

現 象	原 因	解 決 法
◎電源は入っているがターンテーブルが回らない。	◎ベルトをかけ忘れている。 ◎ベルトがはずれてしまっている。 ◎ベルトが切れてしまっている。	◎ベルトをモータープーリーにかける。 ◎ベルトをターンテーブル、モータープーリーにかける。 ◎ベルトを交換する。
◎トーンアームが降りない。	◎キューイングレバーが▼(UP)になっている。	◎レバーを▼(DOWN)にする。
◎ターンテーブルの回転がおそい。 ◎ターンテーブルの回転ムラ(ワウ・フラッター)がでる。	◎ターンテーブル外周やモータープーリー、ベルトなどに油が付着してスリップしている。 ◎ベルトの伸びによるスリップ。	◎油などで汚れている部分を四塩化炭素(薬局で売っています)などで、きれいに清掃する。 ◎ベルトを交換する。
◎スピーカーからモーター音がきこえたり、スピードがうまく切換らなかったり、オートリターン機構がうまく動作しない。	◎プレーヤー組立てのとき輸送用固定ネジ5本を取除いていない場合か、ベルトをベルト切換ガイドにかけ忘れている。	◎輸送用固定ネジを取除く(プレーヤーの組立ての項参照)。ベルトをベルト切換ガイドにかける。
◎オートリターン機構が早く働いて、レコード演奏が中断してしまう。 ◎レコードによってオートリターン機構が働いたり、働かなかったりする。	◎レコードのセンターホールの偏心に原因がある。 ◎レコードの規格から外れたレコードに起こりやすい。	◎他のレコードでも同様な現象が起こるか試みる。同じような現象が起こるときは、サービスマンのプレーヤー調整が必要。そのレコードだけの現象ならプレーヤーは正常(そのレコードに合わせて調整してしまうと規格通りのレコード演奏時にオートリターン機構が正常に動作しなくなる可能性が生ずる。
◎レコード面に針先が降りても音がでない。	◎カートリッジを交換した場合に、そのカートリッジの高さ(寸法)が不相当で、カートリッジの腹がレコード面に当たっている。	◎寸法不相当なカートリッジは使用できない。
◎再生音がふるえたり、ハウリング(ホーンという音)を起こしてききにくい。	◎プレーヤーとスピーカーが同じ台や床に設置されているとき、再生音振動がプレーヤーに伝わりハウリングを起こす。	◎プレーヤーとスピーカーを離して設置し直す。
◎再生音が歪み、きたない。 ◎再生音がチリチリ、パチパチ音でききにくい、また高音域が歪み、きたない。	◎プレーヤーが水平でなく傾いている。 ◎針先にホコリがたまっている。 ◎針先が磨耗している。 ◎レコードが傷んでいるとき、ホコリやゴミがついているときに起こる。 ◎針圧が軽すぎるか、重すぎる。 ◎接続したオーディオアンプの高音部(TREBLE)を強調しすぎる。	◎水平に設置し直す。 ◎針先掃除ハケできれいにする。 ◎新しい針先と交換する。 ◎レコードを新しいものと交換してみる。 ◎使用カートリッジの適正針圧に調整する。 ◎高音(TREBLE)を正常に戻してみる。

15 YP-500の規格と附属品。

●規格

モーター■4極シンクロナス

ターンテーブル径■30cmアルミダイキャスト

回転数■33 $\frac{1}{3}$ 、45rpm2スピード

駆動方式■ベルトドライブ

支持形式■MVOダブルフロート

SN比■48dB(5cm/sec 1KHz)

ワラフラッター■0.08%以下

トーンアーム

型式■トータルマスバランス センターグラビティ方式

(スタティックバランス型)

トラッキングエラー角■最大±1°

全長■290mm(サブウエイト+23mm)

実効長■221.6mm

ヘッドシェル■脱着可 カートリッジ取付EIA

●附属品メンテナンスボックス

針圧調整機構■直続方式 0~4g調整可(0.5gステップ)

〈ヘビーウエイト用サブウエイト付〉

カートリッジ

型式■MM型 シュアー・M75シリーズ

針先■ダイヤモンド 0.6mil(交換可)

交換針■シュアーM75-6タイプII

最適負荷抵抗■50KΩ

附属機構■

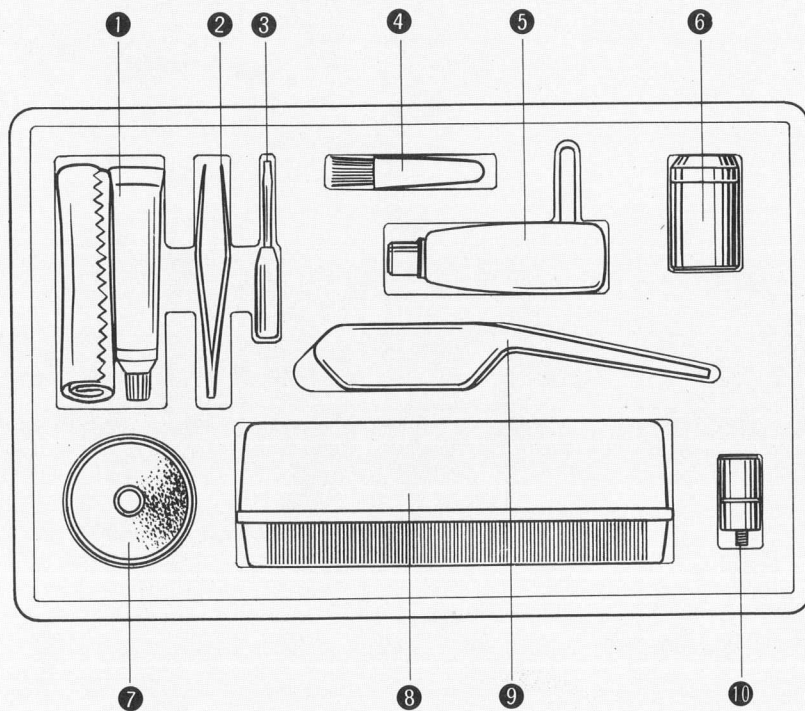
オートリターン、オートカット、キューイングレバー

消費電力■1.5W

寸法■450(幅)×170(高さ)×390(奥行)mm

重量■5.2kg

(規格は性能向上のため変更されることがあります)



① ヤマハクリーナー(クロスつき)

アクリル蓋用クリーナーです。レコードには使用しないでください。

② ピンセット

カートリッジをシェルに取付けるとき、ピンリードの脱着にご使用ください。

③ ⊖小ドライバー

④ 針先用掃除ハケ

⑤ ヘッドシェル(シュアー・M75シリーズカートリッジ付)

⑥ メインウエイト

⑦ 45回転ドーナツ盤用アダプター

⑧ レコードクリーナー(小ブラシつき)

ケース内の小ブラシはレコードクリーナーのモケット(布)部分の清掃用で、針先の掃除には使用しないでください。

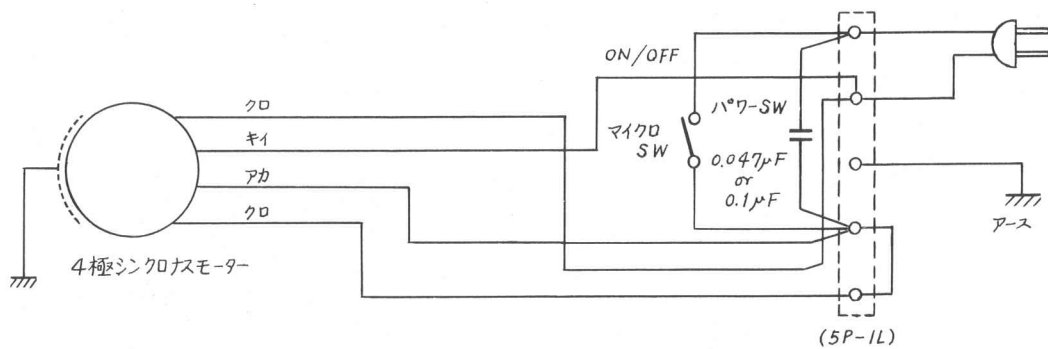
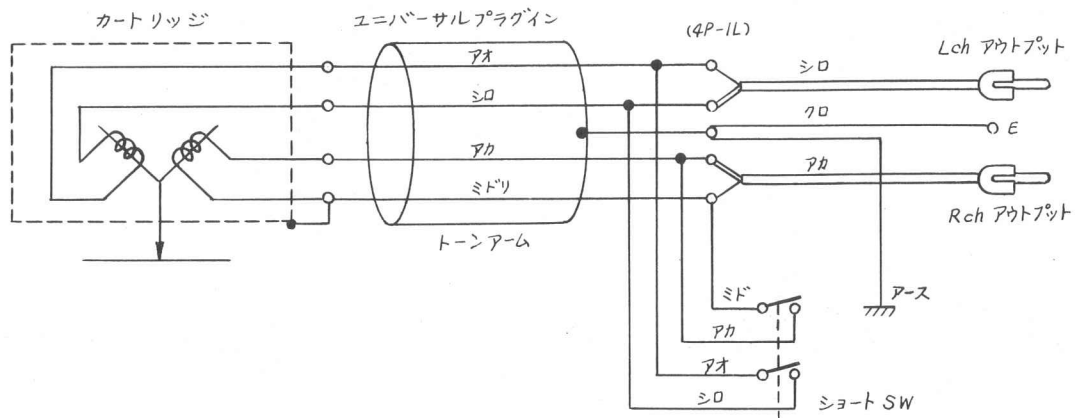
⑨ オイラー

モーター用オイルで、注油についてはYP-500の保守のところを参照にしてください。

⑩ サブウエイト(2ケ1組)

自重の重いカートリッジ用で、附属のシュアー・M75シリーズカートリッジには使用しないでください。

16 YP-500の配線図



●性能向上のため回路図は一部変更になることがあります